

1 総 括

1-1 業務の概要

鹿児島県工業技術センターは、県内企業の技術力向上を支援する県内唯一の工業系公設試験研究機関である。本県における「工業技術の拠りどころ」として、県内産業の振興を図るため、工業技術に関する試験研究、調査、指導及び研修を行っている。技術支援と研究開発を基本業務とし、その業務運営にあたっては、「企業ニーズに基づく技術支援」、「技術シーズの橋渡しによる県内産業の振興」、「多様な連携によるものづくり支援」の3つを業務の柱として県内企業の活動を支援することを基本方針とする中期業務計画に基づき、業務を計画的に実施している。平成29年度に行った主な業務は次のとおりである。

- (1) 試験研究業務では、地域資源の高度利用、生産・加工システム開発、バイオ・食品開発、環境・生活・デザイン技術開発の各分野に関する主要研究12テーマ、九州・山口各県工業系公設試験研究促進事業で2テーマ、基盤研究として7テーマを実施した。また、企業や大学等との共同研究17テーマと公募提案型研究を含む受託研究13テーマを実施した。
- (2) 技術支援業務では、企業活動に伴う様々な技術課題の解決を図るため、技術相談・指導、依頼分析・試験等、設備使用（設備・機器の利用開放）を実施し、工業技術に関する講習会・研修会を開催した。
- (3) 人材育成では、企業の技術者や研究者等で構成する各種研究会を運営し、研修生等として企業の技術者等を申請により受け入れる技術指導と、大学等からの申請による学生指導を実施した。
- (4) 企業への業務紹介による利用促進と業界・企業ニーズの収集・把握を目的として、企業訪問を実施した。

1-2 組織と業務

庶 務 部

- (1) 庶務一般に関すること。
- (2) 他部の所管に属しないこと。

企画支援部

- (1) 試験研究及び技術指導の企画及び総合調整に関すること。
- (2) 工業技術に関する情報の調査及び提供に関すること。
- (3) 国、地方公共団体、大学、企業等との連絡調整に関すること。
- (4) 工業デザイン及び工芸品の開発研究、調査及び技術指導に関すること。
- (5) 工業デザイン及び工芸品に関し、依頼に応じて行う分析及び試験に関すること。

食品・化学部

- (1) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

生産技術部

- (1) 機械工業、電子工業及び金属工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 機械工業、電子工業及び金属工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験、検査測定及び加工に関すること。

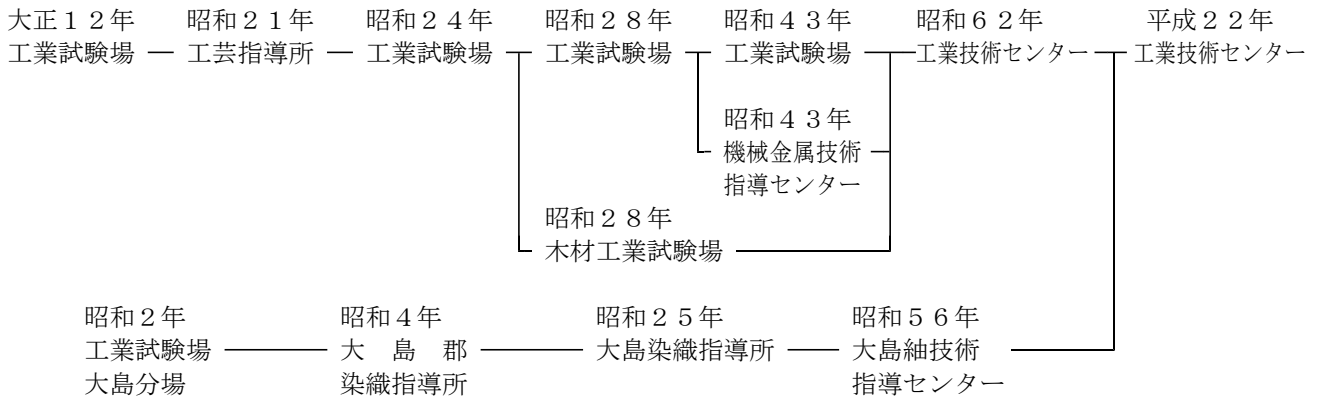
地域資源部

- (1) 木材、竹材等の地域資源の試験研究、調査及び技術指導に関すること（他部の所管に属するものを除く）。
- (2) 木材、竹材等の地域資源に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること（他部の所管に属するものを除く）。
- (3) シラスの試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (4) シラスに関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

（シラス研究開発室）

地域資源部の項の第3号及び第4号に掲げる事務を分掌する。

1-3 沿革

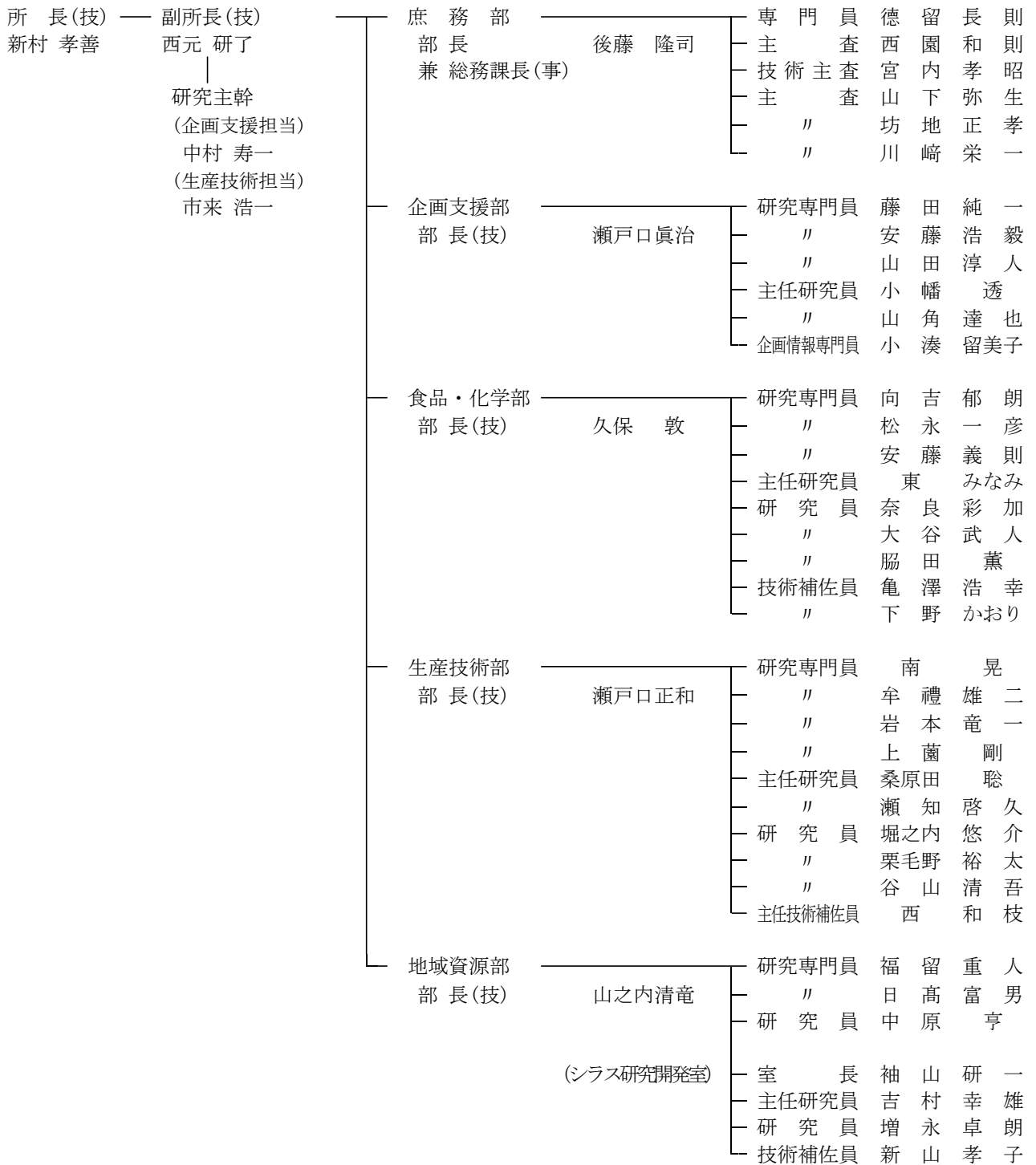


- 大正12年 4月 鹿児島市高麗町に工業試験場を設立し、染色、機織の2部を設置
- 昭和 2年 4月 工業試験場大島分場を設置し、庶務、図案、原料、染織の4部で発足
- 昭和 4年 6月 鹿児島市原良町に移転
- 昭和 4年11月 原料糸検査、醸造、玉糸製糸、撚糸、図案の各部を増設
- 昭和15年 4月 工業試験場大島分場を大島郡染織指導所と改称し、庶務、原料、染織、図案の4部に改編
- 昭和17年 1月 窯業部を増設
- 昭和21年 4月 木工、化学部を増設
- 昭和21年12月 工業試験場に木工養成所を併設
- 昭和23年 1月 工芸指導所と改称し、庶務、化学、窯業及び工芸振興の4部に改編
- 昭和24年 4月 竹工部を増設
- 昭和25年 6月 工業試験場と改称し、庶務、化学、及び工芸（木工、竹工、窯業）に改編
- 昭和26年 4月 大島郡染織指導所を大島染織指導所と改称
- 昭和27年 4月 発酵工業部を新設
- 昭和28年 4月 工芸部より木工係、竹工係を分離して木竹工部を新設、また揖宿郡指宿町（現 指宿市）に指宿分場を設置
- 昭和28年12月 大島染織指導所は琉球政府経済局の所管へ
- 昭和34年11月 木竹工部と木工養成所を工業試験場より分離して木材工業試験場を設置
- 昭和38年 6月 奄美群島が日本へ復帰、鹿児島県大島染織指導所へ
- 昭和39年 4月 鹿児島市武町に移転
- 昭和43年 2月 指宿分場を廃止
- 昭和43年 8月 工芸部を窯業部に改め、化学部に機械金属班を設置
- 昭和48年 3月 工業試験場の新庁舎竣工
- 昭和56年 4月 機械金属班を分離して鹿児島市宇宿町に機械金属技術指導センターを設立
- 昭和62年12月 鹿児島市東開町に木材工業試験場を移転
- 平成 8年 4月 大島染織指導所を大島紬技術指導センターと改称するとともに総務課、機織研究室、図案研究室、染色化学研究室内の1課、3室体制とする。
- 平成 9年 3月 工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場を再編・統合し、現住所に工業技術センターを設立、庶務、企画情報（室）、デザイン開発（室）、食品工業、化学、窯業、機械金属、電子、木材工業の7部2室に改編
- 平成 9年12月 組織改編により庶務、企画情報、デザイン・工芸、食品工業、化学、素材開発、機械技術、電子、木材工業の9部制発足
- 平成10年 7月 知的所有権センター開所
- 平成13年 4月 システム技術開発センター開所
- 平成22年 4月 R&D支援センター開所
- 平成23年 4月 化学部を化学・環境部に改編
- 平成26年 4月 大島紬技術指導センターを統合し、大島紬部を設置
- 平成29年 3月 組織改編により、庶務部、企画支援部、食品・化学部、生産技術部、地域資源部、シラス研究開発室、大島紬部の6部1室に改編
- 大島紬部を廃止、企画支援部奄美市駐在とし、5部1室に改編
- 企画支援部奄美市駐在を廃止

1-4 機 構

1-4-1 組織と職員配置

(平成29年4月1日現在)



1-4-2 職員現況表

(平成29年4月1日現在)

区分	事務職	技術職	現業職	計	非常勤職員	備考
庶務部	6	3		9		所長, 副所長を含む
企画支援部		7		7	1	研究主幹を含む
食品・化学部		8	2	10		
生産技術部		11	1	12		研究主幹を含む
地域資源部		4		4		
シラス研究開発室		3	1	4		
計	6	36	4	46	1	

1-4-3 人事異動

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

発令年月日	氏名	新任	旧任	備考	
H29. 4. 1	後藤 隆司	庶務部長(兼)総務課長	出納局会計課課長補佐	転入	
	徳留 長則	庶務部専門員	県立病院局薩南病院専門員		
	桑原田 聡	生産技術部主任研究員	商工労働水産部産業立地課技術主査		
	坊地 正孝	庶務部主査	庶務部主査		再任用
	川崎 栄一	庶務部主査	庶務部主査		
	山角 達也	企画支援部主任研究員	研究主幹(企画支援担当)		
	松田 豪彦	商工労働水産部産業立地課技術主査	生産技術部主任研究員	転出	
	小路 典子	動物愛護センター主査	庶務部主査		
	徳永 嘉美	大島支庁総務企画部技術主査	企画支援部奄美市駐在主任研究員		
	谷山 清吾	生産技術部研究員		新規採用	
H29. 7. 25	山之内清竜		地域資源部長	退職	
	西元 研了	副所長(兼)地域資源部長	副所長	兼務	
H30. 3. 31	新村 孝善		所長	退職	
	中村 寿一		研究主幹(企画支援担当)		
	徳留 長則		庶務部専門員		
	西園 和則		庶務部主査		
	福留 重人		地域資源部研究専門員		

1-5 規 模

1-5-1 土地・建物

土地面積 50,256.06㎡
 建物延べ面積 16,580.17㎡

区 分	面 積 (単位㎡)	内		備 考	
		階別	面積(単位㎡)		
管 理 研 究 棟 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造 地 下 1 階 地 上 3 階	9,790.29	地階	911.49	機械室, 中央監視盤室 他	
		1階	2,884.14	庶務部, 企画支援部, 会議室 研究員室, ショールーム 他	
		2階	3,097.77	食品・化学部, 生産技術部, シラス研 究開発室, 電子計算機室	
		3階	2,540.82	企画支援部, 生産技術部, 地域資源部, R&D支援センター	
		棟屋	356.07	機械室	
実 験 棟	食品・化学実験棟	656.10	1階	656.10	食品・化学部
	窯業実験棟	951.35	1階	951.35	生産技術部, シラス研究開発室
鉄 骨 造	機械金属実験棟	1,640.25	1階	1,640.25	生産技術部
平 屋 建	木材工業実験棟	1,541.84	1階	1,541.84	企画支援部, 地域資源部
システム技術開発センター 木造(一部鉄筋コンクリート造) 平屋建	1,058.51	1階	1,058.51	産学官共同研究室 実験シミュレーション室 制御測定室, 試作研究室	
そ の 他 付 属 棟	941.83			941.83	浄化槽機械室, 車庫 他

1-5-2 配置図



1-6 決算

1-6-1 歳入

執行状況

(単位：円)

款	項	目	収 入 額	備 考
使用料及び手数料	使 用 料	商 工 使 用 料	3,619,955	うち設備使用料3,482,050
	手 数 料	商 工 手 数 料	4,508,220	
		小 計	8,128,175	
財 産 収 入	財 産 売 払 収 入	物 品 売 払 収 入	0	
		生 産 物 売 払 収 入	309,270	
		小 計	309,270	
諸 収 入	雑 入	受 託 事 業 収 入	18,289,151	
		そ の 他 収 入	172,277	
		小 計	18,461,428	
合		計	26,898,873	(工技センター受入分のみ)

1-6-2 歳出

執行状況

(単位：円)

款	項	目	支 出 額	備 考
農 林 水 産 業 費	農 業 費	農 業 振 興 費	3,620	農 産 園 芸 課
		林 業 費	9,700	森 林 経 営 課
		小 計	13,320	
商 工 費	商 業 費	商 業 総 務 費	113,914	商 工 政 策 課
		工 鉱 業 費	175,398	産 業 立 地 課
		工 業 技 術 セ ン タ ー 費	188,972,308	産 業 立 地 課
		小 計	189,261,620	
合		計	189,274,940	(工技センター執行分のみ)

1-6-3 補助事業等

(単位：千円)

区分	補助事業等の名称	事業名	事業費	補助率	補助額	交付決定日	備考
受託	平成29年度プロジェクト調査 (日本酒造組合中央会)	冷凍生芋を使用した焼酎製造技術の開発	500	1/1	500	29. 4. 3	
〃	戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業) (中小企業庁)	タブレット逐次鍛造法を用いた低価格な防水型USB Type-Cコネクタと振り子ダイス式逐次鍛造成形機の開発	11,480	1/1	11,480	29.10. 6	
〃	革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト) (国研)農研機構	「医福食農連携」による鹿児島県産農畜産物等の消費拡大に向けた高付加価値食品の開発	1,500	1/1	1,500	29. 4. 1	
〃	革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト) (国研)農研機構	南九州地域に適した焼酎麴用米専用品種の普及及び省力・低コスト栽培技術の確立	750	1/1	750	29. 4. 1	
合 計			14,230		14,230		

1-6-4 検査・監査等

種 別	実施年月日	対 象 期 間	実 施 者 職・氏名	備 考
職員監査	平成29年11月 1日	平成28年度	監査委員事務局 吉村 正三, 宮路 敏雄, 蒲ヶ原哲子	
委員監査	平成30年 1月12日	平成28年度	監査委員 大菌 清信, 藤崎 剛 監査委員事務局 特別監査監 竹井 浩子 監査第一課 稲葉 正蔵	

1-7 会議等への参加

(件数)

部 名 項目	庶 務 部	企 画 支 援 部	食 品 ・ 化 学 部	生 産 技 術 部	地 域 資 源 部	シ ラ ス 研 究 開 発 室	合 計
試験研究機関連絡会議	10	14	12	9	4	3	52
学 会	0	2	5	19	6	0	32
研 究 会 ・ 講 習 会	31	31	52	70	7	7	198
そ の 他	40	5	30	22	0	0	97

※庶務部は所長，副所長を含む

1-8 設 備

平成29年度に整備した機器（重要物品）は、以下のとおりである。（6機種）

部 名	機 器 名	型 式	メ ー カ ー 名	備 考
食品・化学部	ケルダール分析装置	K-449, K-375	日本ビュッヒ(株)	—
生産技術部	耐電磁ノイズ試験システム	ESS-S3011A	(株)ノイズ研究所	JKA補
生産技術部	油圧万能材料試験機	UH-F1000kNX	(株)島津製作所	JKA補
生産技術部	デジタルマイクロスコープ	RH-2000	(株)ハイロックス	JKA補
生産技術部	モーションコントロールシステム	—	コムスキャンテクノ(株)	受託
生産技術部	成形欠陥予測システム	HyperWorks	アルテアエンジニアリング(株)	受託

(注) JKA補：JKA補助金（(公財)JKAからの交付）により購入したもの
 受託：戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)などからの受託事業で購入したもの